



ちいさき花 5月号



聖母月、母の日

カトリック教会では、5月は伝統的に「聖母月」といい、聖マリアを記念する月としています。「受胎告知」など絵画のテーマでお馴染みの聖母です。

掻い摘んで語れば、彼女は田舎のとても若い女性でしたが、救いのためにキリストの母となることを告げられ、それに対して自由な意志をもって「はい」と応えました。その「キリストの母なった」ことをもって、マリアはどこまでも人間ですが、**「神の母」**と呼ばれる者となります。当時の状況において、女性、特に若い人は社会的に地位が低く見なされました。しかし、カトリック教会の信仰において神の母聖マリアは、いわば諸聖人の頂点であり、性別関係なく全ての信徒の模範と見做されます。

男性でしかない私が言うのは烏滸がましいのですが、「母」とは胎児を宿し育てという大変な生活の変化を伴う期間を担い、命の危険さえある出産を経て、その後の乳幼児の養育という人生の大きな部分を他者である子どもに与える、とてつもない偉業であると思います。そして、この偉大なる母性の特別な形が、聖母マリアに観られるわけですが、同時にそれは男性にとっても倣うべき模範であるわけです。

ちなみに、現代の母の日の起源は、アメリカに渡ったプロテスタントの人々が、聖母崇敬を伴わない形で、母性を記念し感謝する日と定めたことに始まるそうです。カトリック教会においては、これに加えて偉大なる母性が、人間の救いに関わるものであることを思い起こすのです。

学校法人広島信望愛学園

聖園幼稚園園長 猪口 大記